

公表

保育所等訪問支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	鈴鹿市第1療育センター		
○保護者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 11
○従業者評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月17日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○訪問先施設評価実施期間	令和6年12月16日		～ 令和7年1月31日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	27	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月13日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・多職種の専門職が在籍しているので、保護者様のニーズによって訪問する職員を調整した上で訪問している。	・保護者様へのアセスメントを踏まえて、必要に応じて他職種で連携して訪問できるように調整している	・多職種連携による訪問については、報告書の形式をリニューアルし、よりニーズに合った詳しい情報を共有できるように努めていく。
2	・保護者様が訪問先での様子をイメージしやすいように、報告書はなるべく詳しく記載している。	・時間の経過に沿って、先生やお子様の反応をきめ細やかに記載したり、先生と情報共有・意見交換したことについても丁寧に記載するように努めている。	・訪問後の報告がもう少し早くできるように、また様子がイメージしやすいように配慮しつつ、内容を精選していく。
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・ほとんどの方が年間1～2回のみのご利用で、ガイドラインと比べて訪問回数が少ない現状。	・年間の利用希望者が多く、事前打ち合わせを含めた連絡調整に時間を要してしまうこと、集中的に高頻度に訪問してほしいという依頼が少ないことが挙げられる。	・ニーズによって、訪問支援員2人で訪問する場合と1人で訪問する場合をつくり、効率を良くしていく。また、継続的な支援が必要と思われるケースについては、初めから継続的な計画を立てて訪問できるようにしていく。
2	・訪問のご依頼をいただいてから、実際に訪問に行けるまでの時間が長くなっていることがある。	・年間の利用希望者が多いことや、事前打ち合わせを含めた連絡調整に時間を要していることなどが挙げられる。	・今後訪問支援員の人数を増やしていくことと、業務の効率を見直し事務作業をコンパクトにすることで、依頼いただいてから訪問までの期間を短くしていく。
3			